

# CHARLES-ÉMILE JACQUE

シャルル＝エミール・ジャック(1813～1894)



風景の中の羊の群れ

もしくは平原で羊の群れを連れた羊飼い

紙にコンテ・パステル 1859年作

61.7×97.8 cm 仏40号

バルビゾン派七星・羊と羊飼いの画家

# CHARLES-ÉMILE JACQUE

シャルル＝エミール・ジャック (1813～1894)



## 風景の中の羊の群れ

作品名 もしくは平原で羊の群れを連れた羊飼い

種類 紙にコンテ 1859 年作

サイズ 61.7×97.8 cm 仏40号

## 略歴

1813

パリに生まれる。

1830

地元の版画職人の見習いに入る。  
その後、志願して6年間軍隊生活を送る。  
兵役後、渡英。イギリスにて挿絵を制作(約2年間)  
フランス帰国後、銅板画家、挿絵画家として活動(1843頃まで)

1840頃

モンマルトルの風景を描き始める

1845

エッチング(版画)でサロン入選。  
その後、版画家として幾度か入選。この頃、ミレーと出会う。

1849

暴動とコレラで混乱するパリを逃れ、ミレーと共にバビルゾンに移住。  
ミレーとは隣り合った家に住む。  
その後、家畜や農業をはじめ、主題も家畜が中心となる。  
ミレー、ルソーと共にバルビゾン派の基礎を築く

1854

バルビゾンの村でジャックはミレーやルソーのすすめもあって  
油彩画を描きはじめ、版画時代に築きあげたすぐれた技巧を油彩画に  
反映し、羊の群れと羊飼いという牧歌的な主題を写實的に描いて  
たちまち人気画家となった。  
1850代から1860年代にかけてサロンで3等賞を計7度受賞している。  
バルビゾン村を去る

1861

サロンに絵画を初出品。この作品を元に油彩画を出品している。その後、動物画が中心に

1867

レジオン・ドヌール勲章を受章

1894

パリにて死去

本作品は1859年に紙にコンテで描かれ、1861年にシャルル＝エミール・ジャックが初めてサロンに発表した油彩画作品の元に成った作品です。現在その油彩画作品はオルセー美術館に収蔵されているが、小品が多い本作家にしては珍しく176×280cmと巨大で当時サロンへの思いと彼の風景画家としての矜持を感じさせます。本作品は当時、紙にコンテやパステルで描く事が流行していましたが、その紙にコンテにて描かれた傑作であります。作家の鋭い観察眼や素直な写実性が滲み出ており、また非常に印象派に通じる光の捉え方が繊細にして大胆でかつ朝の構図が巧みに描かれています。バルビゾン派を代表するジャックの作品として十分満足できる作品です。